

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「セブン、ペットボトル回収機の設置店拡大」
 - 2) 「ローソン、夜間の無人営業なるか 弁当や総菜への無線識別タグ適用にめど」
-

1) 「セブン、ペットボトル回収機の設置店拡大」

セブン-イレブン・ジャパンは29日、ペットボトルの回収機を設置する店舗を拡大すると発表した。現在、東京・江東の5店舗に設置するが、2018年2月末までに東京都内と埼玉県内の300店に広げる。ペットボトル5本につき、電子マネー「ナナコ」1ポイントを付与する。

消費者が店舗にペットボトルを持ち込み、回収機に投入する。回収したペットボトルは収集業者をへて、再生ペットボトルとして活用する。消費者が参加する資源循環につなげる。

回収機の読み取り機にナナコをかざしてからペットボトルを投入すると、累計で5本につき1ポイントを与える。消費者が参加する動機付けを与えることで、店舗をリサイクルの拠点として活用する考えだ。

コンビニは女性客やシニア客などの取り込みに力を入れているが、客層が変われば必要なサービスも変わってくる。リサイクルはそこにフィットするのではないかと思う。店舗数の多いコンビニで回収を行うことで、今までスーパーまで持っていくのが大変だった人も少し楽にリサイクルできるようになるし、ポイント還元もあれば来店動機にもつながり、また新しいコンビニの役目が生まれるのではないか。

2) 「ローソン、夜間の無人営業なるか 弁当や総菜への無線識別タグ適用にめど」

ローソンは弁当や総菜といった電子レンジで温める商品に、商品管理を自動化できる無線識別（RFID）タグを適用するめどを付けた。2018年2-3月に、袋詰めまでできる自動レジと組み合わせた次世代コンビニエンスストアの実証試験に取り組む。人手不足対策の一環として、夜間の無人営業を視野に入れて知見を蓄える。

都内の1店舗でRFIDタグと自動レジ「レジロボ」を使った業務の自動化を検証する。レジロボはパナソニックと共同開発したもので、16年12月に業務自動化について実証した。電子レンジで弁当などを温めるとRFIDタグが発熱する問題があったが、メーカーの協力を得て改良した。

RFIDタグは店舗で商品に貼る。飲料や菓子などの一部は工場タグを貼る。これにより生産や物流、消費期限の把握といった商品管理を自動化する。

例えば生産段階の異物混入が見つかった場合、回収すべき製品を正確に把握できる。物流では誤配送を防げるとみている。商品を1個単位で管理でき、店舗内の納品や棚卸しも効率化できる。食品の廃棄ロス減少を狙いに、商品の賞味・消費期限が近づくと、自動で値引きするシステムの導入も想定する。

RFIDタグは対応する防犯ゲートを設置し、万引防止にも使える。クレジットなど現金不要の決済に限定したレジロボと組み合わせれば、強盗対策になるほか店員が接客以外の作業に専念できる。24時間営業の課題である夜間の人手不足を緩和できそうだ。

こういった取り組みが進み、いよいよコンビニの無人化も現実味を増してきた。防犯や安全面では不安が残るが10年、20年先には完全無人化も有り得るだろう。人が買いに来る場所にはやはり人の手が必要だと思うのでどのような形になるのか今後のコンビニの動きに注目したい。